

平成27年度熊本県学力調査「ゆうチャレンジ」 中学校第2学年 数学 出題のねらい等

連番	大問	中問	小問	領 域	学年	学習指導要領の内容等	出題のねらい	観 点				問題類別	
								数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	知識	活用
①	1	(1)		数と式	2年	A(1)ア 整式の加法, 減法	簡単な整式の加法, 減法の計算ができること。			○		○	
②		(2)		数と式	2年	A(1)ア 多項式と数の除法	多項式と数の除法の計算ができること。			○		○	
③		(3)		数と式	2年	A(1)ア 単項式の乗法, 除法	単項式どうしの乗法, 除法の計算ができること。			○		○	
④		(4)		数と式	2年	A(1)ア 多項式の計算	分数の多項式の減法の計算ができること。			○		○	
⑤	2	(1)		数と式	2年	A(1)ウ 等式の変形	等式の性質を用いて目的にあうように式を変形することができること。			○		○	
⑥		(2)		数と式	2年	A(2)ウ 連立二元一次方程式	連立二元一次方程式を解くことができること。			○		○	
⑦		(3)		関数	1年	C(1)ア 関数関係の意味	関数関係の意味を理解していること。				○	○	
⑧		(4)		図形	1年	B(1)イ 図形の移動	回転の中心の位置から, 回転角の大きさを求めることができること。			○		○	
⑨		(5)		図形	1年	B(2)イ 立体の投影図	平面図と立面図の表現の仕方を理解していること。				○	○	
⑩		(6)		図形	1年	B(2)ウ 球の体積	球の体積と円柱の体積の関係や公式を用いて, 数量を考えることができること。		○				○
⑪		(7)		数と式	2年	A(1)イ 文字を用いた式の利用	文字を用いた式で数量関係を表し, 説明することができること。		○				○
⑫	3	(1)		数と式	2年	A(2)ウ 連立二元一次方程式の利用	事象の中の数量の関係から, 課題解決のために方程式に表すことができること。			○		○	
⑬		(2)		数と式	2年	A(2)ウ 連立二元一次方程式の利用	方程式が表している数量の意味を考えることができること。		○				○
⑭	4	(1)		資料の活用	1年	D(1)ア 中央値の意味	中央値が含まれる階級について理解していること。				○	○	
⑮		(2)		資料の活用	1年	D(1)イ 資料の傾向	ヒストグラムから資料の傾向を読み取り, 判断理由を数学的な表現を用いて説明することができること。		○				○
⑯	5	(1)		関数	2年	C(1)エ 一次関数の利用	与えられたグラフから, 必要な情報を読み取ることができること。			○		○	
⑰		(2)		関数	2年	C(1)エ 一次関数の利用	グラフの傾きと速さの関係を理解していること。				○	○	
⑱		(3)		関数	2年	C(1)エ 一次関数の利用	与えられた情報から, 問題の解決方法を言葉や数, 式, グラフなどを使って説明しようとしていること。	○					○
⑲	6	(1)		図形	1年	B(2)ウ 円の面積	正方形に内接する円の面積を求めようとしていること。	○					○
⑳		(2)		数と式	2年	A(1)イ 文字を用いた式の利用	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができること。		○				○

※ 網掛けの問題は, 平成26年度調査において課題が見られた内容の改善状況を見る問題として出題しています。